



海外での
支援活動

ブータン「山岳歯科医」テンジン・ドルジさんから 東京マラソン2025支援成果報告が届きました！

世界こども財団（FGC）は、2025年3月の東京マラソン2025において、ブータン人として初出場し、見事完走したテンジン・ドルジさんの挑戦を支援しました。ブータン国内の「山岳歯科医」として、歯科医療が届かない地域や、身体障がいを持つ人々などへ診療や口腔衛生教育を届けているテンジンさんが、東京での経験をどのように現地ブータンへ還元し、活動の輪を広げているのか、現地からの最新のレポートをお届けします（テンジンさんによる報告書より抜粋）。



東京マラソン完走後のテンジン・ドルジさん

東京マラソン2025に向けていただいたご支援は、単なるレース経験以上のものとなりました。それは学び、健康やランニングの認知度向上、そしてモチベーションの源となり、ブータンにおける青少年の社会参加、コミュニティランニング、陸上競技の発展、さらには未来への社会的インパクトをもたらすチャリティ活動へと繋がっています。この経験を通して、国際的なマラソン文化、市民参加、大会運営、そしてランニングがいかに一般の人々、アスリート、家族、都市、社会的意義を繋ぐことができるのかを学ぶことができました。

全国紙での報道によって、社会的認知の拡大

帰国後、私の東京マラソン2025への旅は、ブータンの国営紙『クエンセル（Kuensel）』の紙面および公式SNSで大きく取り上げられ、社会的に広く認知されました。これにより、マラソンがブータン人ランナーにとって意義深く、実現可能なものであるという認識を広く普及させることに貢献し、今後の議論を深めるためのプラットフォーム作りに繋がりました。



ブータンの国営紙「クエンセル」に掲載

学校での活動と運動プログラム

学校では、日本で経験したランニング文化、そして規律、健康、楽しむこと、忍耐力の重要性について学生やこどもたちと共有しました。また、こどもたちに競争のプレッシャーを与えるのではなく、楽しい身体運動を通してスポーツへの興味を持たせるため、リレー形式のゲームやコーディネーション能力を高める運動などを取り入れたプログラムを実施しました。



こどもたちへの運動プログラム



FGCのロゴが入ったTシャツを着て



生徒たちへ日本での経験を共有

スポーツエコシステム・アップグレード・プログラムへの参画

私の東京マラソンでの経験とこれまで継続的に行ってきた草の根レベルからのランニング振興に向けた活動は、ブータンオリンピック委員会（BOC）の指導部からも高く評価され、ブータンアマチュア陸上競技連盟（BAAF）が取り組む「スポーツエコシステム・アップグレード・プログラム」への参画を委託されました。個人のマラソン経験と、より広範な国全体のスポーツ振興活動とが連動しています。

スポーツエコシステムとは、ファン・選手・企業・地域社会が相互に価値を提供し合い、スポーツ産業の成長と社会課題解決を両立させる持続可能な仕組みです。

Run4Bhutan：コミュニティランニングの取り組み

組織の活動に加えて、コミュニティ主導のランニングプラットフォームとして「Run4Bhutan」を立ち上げました。目的は、初心者や趣味で楽しむ一般の人々にとって、ランニングをより身近で安全に、楽しく、そして社会的に意義のあるものにする事です。朝のコミュニティラン、Couch-to-5km（初心者向け 5km 完走プログラム）、ハーフマラソン・フルマラソンへの準備、ウォーミングアップ指導、ランニングフォーム改善、怪我予防の啓発、そしてストレッチやリカバリーにいたるまで、正しい知識での実践をサポートし、ランニングを通して健康的なコミュニティを築いています。

次なるステップ：シドニーマラソンと脊髄研究のためのチャリティ

私のランニングの旅の次なるステップは、2026年8月30日に開催されるシドニーマラソンへの参加です。光栄なことにこの大会への招待を受け、私はこの機会を活用して脊髄研究のための資金を集めたいと計画しています。この活動は、私の母が脊髄疾患を抱えて生活しているため、個人的にも非常に深い意味を持っています。

この挑戦に込めたメッセージはシンプルです。「I run so they can walk（私は走る。だから、彼らが歩けるようになる）」。

東京マラソンから始まった「走ることで社会に貢献する」という私の旅は、これからも続いていきます。

支援をいただいた皆様へ

日頃から世界子ども財団を温かく支えてくださっている皆様、そして東京マラソン 2025 への参加を可能にくださった FGC および星槎グループの皆様へ、心から感謝申し上げます。

皆さまからいただいたご支援は、東京マラソンのフィニッシュラインで終わったわけではありません。ブータンの教室や校庭、コミュニティラン、陸上競技連盟の発展、そして未来のチャリティマラソンという新たな目標へと今も繋がり、広がっています。

日本滞在中に私を温かく迎え、支え、導き、そして本当に自分が特別な存在だと感じさせてくれたすべての皆さまの温かい心遣いとホスピタリティに心から感謝いたします。

東京での経験は、私が誇りと感謝の気持ちをもって生涯心に刻む大切な記憶となりました。

テンジンさんは東京マラソン 2025 の経験を自国ブータンへ持ち帰り、ランニングを奉仕活動や社会貢献のためのプラットフォームとして活かし、走り続けています。医療とスポーツを通じて未来を切り開くテンジンさんの活動を、世界子ども財団はこれからも応援してまいります。皆様の温かいご支援とご協力に、改めて心より感謝申し上げます。



ブータンオリンピック委員会との連携



コミュニティランニングのメンバー



脊髄研究のためのチャリティ支援



海外での
支援活動

ウガンダKOMOREBI小学校の 教室増設が進んでいます！

世界子ども財団が2023年より支援を行なっている、ウガンダ北部のオモロにある「KOMOREBI 小学校」から、現地に2ヶ月滞在した駐日ウガンダ共和国大使館職員のラムヌ・ルーシー・ルースさんより、現在のインフラ整備状況に関するレポートが届きました。

児童の成長に合わせたインフラ整備

2023年に通学路に架かる橋、「SEISA Africa Asia Bridge」の完成後、当財団はKOMOREBI 小学校のこどもたちの成長に合わせた教室などの増設を継続して支援しています。

当初わずか2学年2つの教室からスタートした本校は、毎年1クラスずつ教室を増やし、ついに5つの教室が完成しました。現在は、小学6年生の教室建設が進んでいます。さらに、こどもたちの栄養と健康を支える給食用のキッチン建設も新たに始まっています。将来的には遠方からの児童を受け入れるための寮の建設計画も進行中です。

橋の建設から始まった、KOMOREBI 小学校への支援は、一歩ずつ着実に進んでいます。こどもたちが学び続けることができるよう、引き続き皆様の温かいご支援をよろしくお願いいたします。



完成した5年生教室



机や椅子などの備品もすべて揃いました



建設中のキッチン



ラムヌ・ルーシー・ルースさんからのメッセージ

KOMOREBI 小学校およびオイランゴ村のコミュニティを代表して、みなさまのKOMOREBI 小学校の建設に対する、これまでの寛大で継続的なご支援に対し、心より感謝申し上げます。当初2教室のみでスタートした本校は、5つの教室を備え、積極的に学ぶこども達が通う小学校へと成長することができました。

私たちは、いただいたご支援を責任をもって適切に管理し、今後も進捗について継続してご報告してまいります。本当に、本当にありがとうございます。

オモロと

KOMOREBI 小学校について

ウガンダ北部に位置するオモロは、かつて反政府勢力による被害に苦しんだ地域で、今なお貧困や不安の中に身を置く住民も少なくありません。しかし、現地の人々は希望を失わず、こどもたちの明るい未来のために平和と発展を願い続けています。その願いを叶えるために誕生したのが、日本の認定NPO法人五条クラブとウガンダの人々が協力して建設したKOMOREBI 小学校です。



「SEISA Africa Asia Bridge」について

雨季と乾季の気候変化が激しく、雨季になるたびに川が増水して道が冠水し、こども達は通学できなくなっていました。この課題を解決するため当財団の支援がスタート。皆様からのクラウドファンディング資金をもとに2024年に、「SEISA Africa Asia Bridge」が完成しました。この橋のおかげでこどもたちは天候に関わらず毎日登校できるようになりました。





国内での
活動

「世界のどこでもハンズオン」 こどもたちにエリトリア文化を 紹介するプログラムを実施しました！



当財団ではこれまで、駐日エリトリア大使館からの依頼を受けて、都内の小学校で国際理解教育の出張授業を担当してきました。講師を務めるのは、スポーツ奨学生として来日し、星槎道都大学を卒業後に当財団職員となったエリトリア出身のケセテ・ハブテシオンさんです。

2026年3月23日、港区立「麻布子ども中高生プラザ」にて、小学校低学年のこどもたちを対象にした「世界のどこでもハンズオン」というプログラムで、エリトリアの文化を伝える機会をいただきました。

当日はパワーポイントで現地の写真を見せながら、エリトリアの場所や気候、食べ物、そしてこどもたちの生活について紹介。30名以上のこどもたちが参加し、大盛況のイベントになりました。

特に盛り上がったのはエリトリアの言葉である「ティグリニヤ語」のアルファベットを使ったゲームです。エリトリア大使館にご協力いただき、アルファベットを大きなパネルにさせていただきました。

こどもたちは夢中になってパネルを動かし、「エリトリア」、「ジャパン」、「平和」という言葉を並べ替えるゲームに挑戦！日本とエリトリアを繋ぐ、貴重で温かな交流の機会となりました。

保育園で国際交流&かけっこ教室！



6月19日には、神奈川県川崎市の野川南台保育園で、ケセテさんと園児のみなさんの交流を実施しました。近隣のティンクル上野川保育園のみなさんも参加し、あわせて約30名の5歳児、6歳児が迎えてくれました。

前半はアフリカとエリトリアについて紹介しました。写真を使ってアフリカについてみんながイメージする動物について話したり、エリトリアのティグリニヤ語であいさつをしたりしました。保育園の先生方が事前にお話ししてくれたこともあり、アフリカやエリトリアについて知っていることを話してくれる園児も多かったです。

後半は屋外に移動し、スカイランニングの日本チャンピオンでもあるケセテさんのかけっこ教室を行い、みんなで楽しく体を動かしました。ラストはケセテさんがアフリカのライオンに扮して園児たちを追いかける鬼ごっこで、おおいに盛り上がりしました。

こどもたちが楽しく遊ぶ中で、海外の文化や国際交流に興味を持つきっかけになってくれればと願っています。



仲良くかけっこ鬼ごっこを楽しみました



ライオンに扮したケセテさん



2026年7月発行

公益財団法人
世界こども財団

〒259-0111 神奈川県中郡大磯町国府本郷1805-2（星槎グループ内）

TEL. 0463-74-5359 FAX. 0463-74-5374 E-mail: fgc@fgc.or.jp

ホームページ: <http://www.fgc.or.jp> Facebook: 「世界こども財団」で検索！

制作：岡村直実（JC ユニット）

